



地域・駅・新幹線ニュースレター

# はっしん！ 新青森



青森県立青森西高等学校  
Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School



青森大学  
AOMORI UNIVERSITY

2026年9月20日(日)  
第73号【隔月刊・FREE】

青森大学・青森西高等学校  
高大連携事業  
協力：JR 東日本新青森駅

青森大学社会連携センター

## 「北の縄文とアジア」つながり探る

### 北海道・北東北の縄文遺跡群 世界遺産登録 5 周年記念特別展

#### 三内丸山遺跡

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録 5 周年記念特別展「北の縄文とアジア—海をこえたつながり—」が 10 月 12 日(月・祝)まで、三内丸山遺跡で開かれています。ロシアの極東地方や朝鮮半島、中国東北部の文化との共通点に光を当て、「北の縄文」が持つ普遍性と特徴に迫っています。

県内各地はもとより、北海道や北陸、関東、さらにはアムール川流域のロシア・中国から出土した土器、石器、石製品など約 390 点が展示されています。それぞれ、形や製法、背景にある暮らしの共通点について、「定住のはじまり」「海と森の恵みをいかす」「祈りとまつりのかたち」「アジアをつなぐ装身具」といったテーマ別に、学術的な解説が加えられており、理解を深められます。

例えば、外ヶ浜町の大平山元遺跡では、国内最古・紀元

前 1 万 3000 年の土器が発見されていますが、アムール川流域や東シベリア、中国各地で紀元前 1 万年にさかのぼる土器が見つっています。このため、土器が一つの地域で生まれて広がったのではなく、複数の地域でそれぞれ出現した可能性が指摘されていると解説しています。

注目されるのは、中国の玉器「玦」(けつ)に形が似た、白色や緑色の石で作られた「玦状耳飾り」です。

平たく薄い環状の石に切り込みが入った、「C」字形をした玦状耳飾りは、紀元前 6000 年に中国東北部で誕生し、その技術が周辺に広がったと考えられています。日本では縄文時代早期末葉(紀元前約 5000 年)に現れて前期に全国へ広がり、世界遺産の三内丸山遺跡やニツ森貝塚(青森県七戸町)などで出土しています。

特別展では、国内の初期の事例として貴重な、福井県あわら市の桑野遺跡の出土品などを展示しています。

観覧料は一般 1,200 円、大学生等 600 円で高校生以下は無料(遺跡を含む常設展も観覧できます)。9 月 28 日(月)は休館日です。



#### 「じょもじょも」来場 30 万人

青森駅東口ビル 4 階にある「あおり縄文ステーションじょもじょも」では 8 月 7 日、来場者 30 万人目となった埼玉県からの来場者に記念証と記念品が贈られました。

「じょもじょも」は青森県内にある「北海道・北東北の縄文遺跡群」の 8 つの構成資産の、価値や魅力、アクセス情報を案内・発信する施設として 2024 年 4 月に開設されました。「じょもじょも」では、ジオラマや映像、体験コーナーで気軽に、縄文世界に触れられます。入場無料、休所日は 12 月 30 日～1 月 1 日と、設備保守点検などに伴う臨時休所日があります。

## 装飾する魂 ユーロ＝アジア世界をつなぐ文様の宇宙 — 縄文、ケルトから、ねぶたまで

青森県立美術館

開館 20 周年記念展

### 「東日本大震災 15 年 志賀理江子 なぬもかぬも」

青森県立美術館 20 周年記念企画展「装飾する魂 ユーロ＝アジア世界をつなぐ文様の宇宙—縄文、ケルトから、ねぶたまで」が 9 月 27 日(日)まで開かれています。縄文時代にさかのぼる「飾る」営みに注目し、世界各地の装飾文化と青森を結ぶ「装飾する魂」を浮かび上がらせます。

アイルランドのケルト美術、北東アジアと中央ユーラシアの美術工芸、日本の縄文とアイルランドの巨石、北方民族の交易と装飾、青森ねぶたなどから、時間と空間を超えた意匠と人々の心が伝わってきます。

終盤のみものは、函館市・著保内野(ちょぼないの)遺跡から出土した、国宝の中空土偶(写真、縄文時代後期後半)です。2007 年の国宝指定後では初めて、青森県内で実物が展示されました。



同じく、青森県立美術館開館 20 周年記念の企画展「東日本大震災 15 年 志賀理江子 なぬもかぬも」が 10 月 31 日(土)から 2027 年 3 月 14 日(日)まで、同美術館で開かれます。

志賀は愛知県出身の現代美術家です。身体感覚に根ざした光と色、演劇性のある写真や映像作品で国際的に知られています。2006 年、宮城県沿岸部を訪れて「松林のある風景」と出会い、強烈に惹かれ、2008 年に同県名取市北釜地区へ移り住みました。

その後、地域のカメラマンとして活動しながら、人びとのオーラル・ヒストリー(話を聞き、歴史の記録としてまとめる作業)の聞き取りに取り組みました。2011 年の東日本大震災で被災しながらも、写真シリーズ「螺旋海岸」を発し、大きな反響を呼びました。現在は同県石巻市を拠点に活動しています。

今回の企画展は、東北各地で撮影された作品をはじめ、風景への深い洞察から生まれた写真や映像、テキスト、インスタレーションなどを紹介し、作家にとって過去最大規模となります。

タイトルの「なぬもかぬも」は、三陸沿岸部に伝わる方言で「お手上げだ」「一切合切」など、人や場面によ

てさまざまな意味合いで使われているといます。また、「東日本大震災 15 年」は、作家の表現を通じて 16 年目の春を考える、という前向きな意味合いがあるそうです。

担当の奥脇嵩大学芸員は「現代日本を代表する写真家・志賀理江子による東北個展です。作家が震災前から住まう東北と行き遣い・生まれた独自の表現世界に巻き込まれてください」と話しています。

今後の休館日は 9 月 28 日(月)～10 月 9 日(金)、22 日(木)、26 日(月)、30 日(金)、26 日(月)、11 月 9 日(月)、24 日(火)、12 月 14 日(月)、24 日(木)～31 日(木)、2027 年 1 月 1 日(金)、12 日(火)、25 日(月)、2 月 8 日(月)、13 日(土)～25 日(木)、3 月 8 日(月)です。

両展示の観覧料はともに、一般 1,700 円、大学生 1,200 円、18 歳以下および高校生は無料です。同時開催のコレクション展とのセット券は一般 2,060 円、大学生 1,320 円です。



20TH  
青森県立美術館  
AOMORI MUSEUM OF ART

# 青森西高「石江江渡下町会」ねぶた運行支援 浪岡高

## 青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく⑦

青森県立青森西高校・青西おもてなし隊の生徒たちが今年も、学校に近い青森市・石江江渡下町会の「地域ねぶた」の青森ねぶた祭出陣を支援しました。同校は2027年4月、同市浪岡地区にある県立浪岡高校と統合



して「青森西ヶ丘高校」に生まれ変わることが決まっています。その流れを先取りするように、浪岡高校の生徒たちも運行に加わって、青森市を象徴する祭りを盛り上げました。

青西おもてなし隊による同町会の地域ねぶた支援は2023年に始まりました。今年は8月2日、3日の両日、延べ27人が参加し、それぞれの運行に浪岡高校生3人が駆けつけました。

前日まで天候が安定せず、直前に行われた、ねぶたを台車の上に載せる「台上げ」は雨の合間を縫っての作業となって関係者ははらはらさせました。しかし、運行当日は天候に恵まれました。

今年の運行は、「跳ね人」エリアの側面に「令和9年度青森県立西ヶ丘高校開校」の横断幕を付けて行われました。沿道の観客からは「私は青森西高校のOBです」「西ヶ丘がんばれ～」といった声が掛かり、生徒たちは



笑顔で対応していました。また、浪岡高校生たちは、ねぶたを引っ張る主戦力として活躍しました。

運行終了後、生徒たちは少し疲れた様子ながらも、満足げな笑みを浮かべ、「ぜひ来年も、ねぶた運行を支援したい」と、充実感を漂わせていました。

## 青森市立新城 新青森駅おもてなし

# 卒業生が横浜・小机駅長と対面 6年越し交流、「活動を機に看護の道へ」

新青森駅を拠点の一つにおもてなし活動を展開している青森市立新城中学校(横山博校長)のOBたちが8月、活動を通じて同校と6年越しのつながりを持ってきたJR東日本・小机駅(横浜市)の駅長らと対面しました。

同校は新青森駅一帯を学区としています。2016年に折り紙金魚ねぶた作りを始め、2017年から8月の青森ねぶた祭に合わせて、駅利用者への配布を始めました。新城小学校、新城中央小学校と協力して活動しています。

コロナ禍が始まった2020年は駅での配布ができなく



なったことから、折り紙金魚ねぶたを、コロナ禍の中で奮闘する地元の郵便局や消防署、交番、東京などの青森県アンテナショップなどに寄贈するようになりました。

翌2021年、当時の新青森駅社員の発案で、東京駅とJR横浜線の小机駅(横浜市)に折り紙金魚ねぶたを贈って活用してもらいました。両駅から届いたメッセージは新青森駅に展示され、交流が続いてきました。

対面は、横山校長が吉田和男・新青森駅長に提案し、8月3日に同駅で実現しました。小机駅から鶴澤(ときさわ)玲子駅長らが駆けつけ、新城中学校で活動を指導した山形亜紀子教諭(現・青森西中学校)と永井悠翔さん(19)、奥谷真央さん(19)が顔を揃えました。

対面を振り返って山形教諭は「駅員のお一人お一人が金魚ねぶたを手に取り、笑顔で写っている写真を送って下さったり、隣接する保育園にも分けてくださって園児さんの絵が送られてくるなど、交流が今も続いています。こんなに心を寄せてくださる方々がいらっしゃることに本当に感謝しました」感謝を語りました。



永井さんは、今も折り紙金魚ねぶた作りに携わっているといい「懐かしい気持ちでした。ボランティアの縁というのは世代が変わっても強い力を持ち続けているのだなと感銘を受けました」と話していました。奥谷さんは製作が契機となって高校でJRC(青少年赤十字)に所属、今は看護師を目指しているといい、活動の継続に驚きながら「困っている人を支えられる看護師になれるよう、ボランティア活動をこれからも大切にしたい」と決意を新たにしていました。

見学時間 9:00～17:00(入場は開館の30分前まで)  
(春の大型連休中と6月1日～9月30日は18:00)  
休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日)、12月30日～1月1日  
観覧料 一般:500円(400円) 大学生等:250円(200円)  
高校生以下:無料

※( )内は20名以上の団体料金  
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット提示で割引特典あり。  
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305  
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365  
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>



青森県立美術館

縄文 芸術  
三内丸山遺跡センター 青森県立美術館



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00(入場は16:30まで)

休館日 不定休(青森県立美術館HP参照)

観覧料 一般700円(560円)/大学生400円(320円)/  
18歳未満および高校生以下 無料

※( )内は20名以上の団体料金  
※心身に障がいのある方と付添者1名は無料  
※企画展は別料金。

お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185  
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244  
URL <https://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 → 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口) 約15分・300円、タクシー(南口) 約10分、徒歩約30分  
→ 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口) 約11分・300円、タクシー(南口) 約10分、徒歩約40分

Facebook ページ  
Instagram アカウント

<ネット情報>

Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ



下さい。また、PDF版を青森大学社会連携センターのFacebook ページに掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部  
櫛引素夫 電話 017-738-2001 内線 731  
shin-aomori@aomori-u.ac.jp

